発行所
三池炭鉱労働組合
大牟田市不知火町2
電話3033番 7140番
編集兼発行人　境　孜

果敢な大衆行動を
23日から無期限スト突入

賃金要求を闘いとり、企業整備をハネ返すため、すでにわれわれは二月二十五日時限ストを決行以来、二十四時間ストをくりかえし闘いつづけてきたが、さらに三鉱連は十二日から四十八時間スト十六日から四十八時間スト、十九日から七十二時間ストに突入し、二十三日以降炭労一斉の全山無期限ストに突入する様指令四十九号がだされた。もちろん賃闘と企闘は不離一体の闘いであり、これを結合させ同時解決の方針で闘つていくとともに、この無期限ストのなかで会社側に「企業整備をおこなわないという確約として長計協定の再確認」「企業整備の白紙撤回」「賃金をひきあげることの確約」をさせる大衆行動をおこして果敢に闘うことになつた。

闘いはきわめてきびしい長期闘争になることは必至で、全組合員と家族の異常な決意によるはげしい闘いに突入した。

賃闘と企闘は同時解決

四十九号指令によるストライキ突入の期日と、その規模方法は、

3月12日　(1)三鉱連傘下支部一番方より四十八時間一斉ストライキ
(2)三社連傘下支部時間外拒否

3月13日　全支部（三鉱連傘下支部を除く）各番方昇坑時一時間五十分の時限ストライキ

3月16日　(1)三鉱連傘下支部一番方より四十八時間一斉ストライキ
(2)三社連傘下支部時間外拒否

3月17日　全支部（三鉱連傘下支部を除く）各番方昇坑時一時間五十分の時限ストライキ
(1)三鉱連傘下支部一番方より七十二時間一斉ストライキ
(2)三社連傘下支部（二十日を除く）時間外拒否

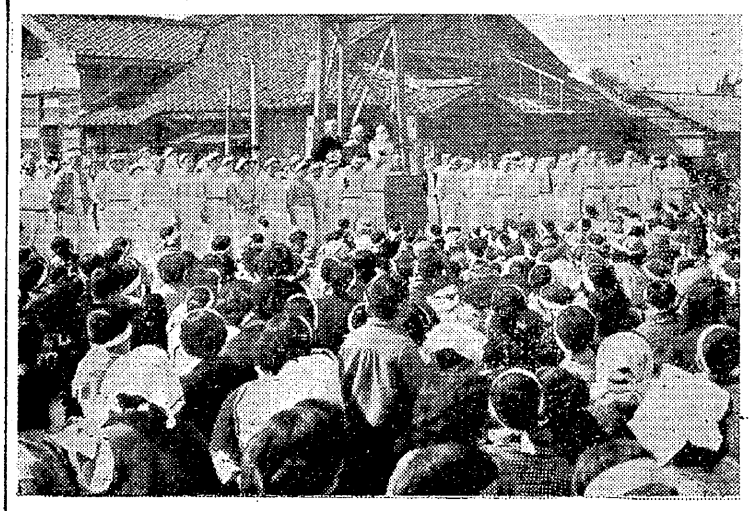
3月20日　全支部（三鉱連傘下支部を除く）一番方より二十四時間一斉ストライキ

3月23日　全支部一番方より一斉無期限ストライキ

またこのストライキのなかで、
㊀長計協定の再確認（企業整備をおこなわないことの確約）。
三鉱連・三社連傘下各支部は企業整備の白紙撤回要求。
㊁賃金を引上げることの確約。
この三点を行動指標に、徹底的な大衆動員、抗議行動をおこなう。
また、所属する本社にたいして抗議文、抗議電報を送付するとともに、三鉱連・三社連傘下以外の支部は三井鉱山にたいして企業整備にたいする抗議白紙撤回を要求打電する。
さらに三鉱連、三社連傘下支部は他支部にたいしてオルグの派遣をおこない、企反闘争の理解と認識をふかめるための行動をおこなう。
三鉱連、三社連傘下支部には近隣する支部から人員を派遣して交流激励をおこなう。
ことしの賃金闘争は企業整備反対闘争をふくめて、石炭資本と炭鉱労働者の対決であり、一、二五〇万トンという異常貯炭のあるなかで、賃上げを闘いとり、企業整備をハネ返えすには、炭労二〇万とその家族をふくめた徹底的な大衆闘争を基礎として闘いをすすめなければならない。

賃金格差絶対認めぬ

私鉄に賃金格差をつけたように、石炭資本も賃金格差をおしつけようとする意図をもつており、これを排除して統一賃金を闘いとる力こそ、企業整備をハネ返える力であり、賃闘と企闘は当然同時解決の方針で闘いをすすめていく。
こうして二十三日以降、坑内の保安要員は最小限度にしぼつたはげしい全面一斉無期限ストに突入することになつた。


臼井の決起大会を激励する天道地連協の交流隊

各地域で決起大会
各会場へは交流会も

三月二日からはじまつた二十四時間ストでは、各地域十六カ所で一斉に決起大会がひらかれた。
この日、勝立・緑ガ丘・万田など会場を十六カ所に設け「賃上げ、企業整備反対」の抗議大会をひらいた。会場にはハチマキ姿の主婦や組合員がぞくぞくつめかけ、企業整備案を撤回させることが賃闘をも勝ちぬくものだと、大会はストのためもあつて活発におこなわれた。
とくにこの大会では交流団を編成、主婦も組合員にまじつてペタルをふみ、隣接の大会場へ交流をおこない、闘いを勝ちぬく決意はいやがうえにも高まつた。

みんなのいかりを

われわれは、四十九号指令によつて、徹底的な大衆行動を基礎に保安要員を最小限度に縮少し、三月二十三日から六三スト以来初めての全山一斉無期限ストを決行する。
いま全国で一二五〇万トンもの貯炭があるといわれているなかで闘うこの無期限ストは、決して貯炭べらしのみにその戦術効果をもとめるものであつてはならない。
われわれの要求にたいして会社の回答は標準作業量の引上げ（二割―三割）と賃金のゼロ回答、つまり「賃下げ」である。
しかもいまは三井だけだが、企業整備の一方的なおしつけで露骨な攻撃をしかけてきている。
炭労全山一人ひとりの怒りに燃えた「火だるま」の闘いによつてハネ返えしていかねばならない。
さらにわれわれは、会社側が三川支部選挙分会長に「業務阻害」という理由でだしてきた一方的な不当解雇にたいしても、組合活動の自由と職場闘争を守るという立場から、これを断固ハネ返えすという決意をかためた。

企闘と賃闘の結合

いまわれわれは「賃闘」と「企闘」を結合させて、はげしい闘いに突入しており、指令四十九号でもあきらかであるが、十四日、古賀炭労事務局長他十名の中闘をむかえてひらかれた九州炭労地方委員会では、三鉱連の「企業整備反対闘争」と炭労の「賃金闘争」を同時に解決するという根本的闘争方針を確認した。
もちろん、同時解決とは両方が全く同じときに解決するという意味ではなく、両方が解決しないかぎり、ストライキを止めないという方針なのである。
すなわち、このことは前の企図している「賃金格差」をゆるさず炭労の統一賃金闘争を守るということであり、三鉱連の賃金を他社なみに払らわせるということである。
そしてこれこそが、三鉱連にたいする一方的な企業整備を粉砕する唯一の闘争方式といわねばならない。
さらに、二十三日からの炭労一斉の全山無期限ストにさきだつて闘つた三鉱連の延十一日二六四時間におよぶストライキにたいする生活資金の融資については、特別の措置をはかることになつている。

すべての力を

たたかいは激しく長期化するだろう。
だが、こんどのたたかいの容易ならぬ意味と、それから、一度の「火の玉」のたたかいが、何年もの間われわれを守ることを、労働者の肌身でわれわれはしつている。
だから、われわれは恐れない。あるだけの力で、みんなしてたたかいぬこう。
ちようど、六年後の「一一三日闘争」を、「英雄なき」たたかいとしてたたかいぬいたように。

はげしい怒りに燃えて

前進
怒りに燃えて

▲三月二十日午前十時から笹林廣場で決起大会をひらきます。

みんなが斗つている

賃金ゼロ回答と不当な企業整備に　はげしいいかりをこめて　ストライキを決行しているとき　ストライキに突入した染料の仲間たちが　赤旗をおしたてて　宮原・臼井・野添の地域分会に　交流激励にやつてきた。　炭鉱と染料の労働者がいつしよにスクラムをくんで闘うことを誓いあつた。
三池労組の行動隊が　羽をつけて　三染労組の決起大会を激励にいつた。　デモ隊の足音がぐんぐん高まつて、炭鉱労働者も、化学の労働者も　労働者みんなが闘つていることを　肌身で感じた。
みんなが闘つている。
みんなで前進している。

げき電

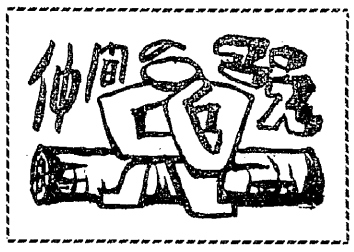
企反闘争突入いらい各方面から本部には檄電がよせられています。檄電はつぎの通りです。
㊀合理化をはね返し、労働者の基本権を守り抜こう、平然たるストライキに激意を表し共に闘うことを誓う。（総評）
㊁賃上げと企業整備に反対して闘う炭労組に心から激意を表します資本家の低賃金政策に対決し、大巾値上げ実現のため春闘を共に闘い抜くことを誓います。（大阪石原労連）
㊂企業整備をはね返し賃闘を勝ち抜こう。（西鉱連地闘委員会）
㊃労働者の首切り実質賃金切下げ悪らつなる会社の暴挙粉砕のため闘う貧労組に激意を表すとともにわれわれも炭労の旗の下に断固ざいごまでともに闘うことを誓う。（炭労夕張支部決起大会）
●企反闘争の勝利を祈る、われらともに闘う。（自尾労組）
㊄再建案に名をかり、諸権利のはく奪を狙う会社の挑戦に抗し闘かわれる貧労組に激意を表す。われらともに闘うことを誓う。（貝島労組）
㊅なつかしき大牟田の街、赤旗あふれ、勇敢に闘う同胞とわれらともに歩む。頑張れ！（劇団新制作座）

闘争日誌

3・1　西鉱連地闘委員会
2　24時間スト　交流情宣　四山支部
3　山元共闘委員会　炭労古賀事務局長来山
4　24時間スト　各地域毎に決起大会
5　交流情宣　三川支部
6　交流情宣　三川支部
7　24時間スト　交流情宣　三川支部
8　大天地労組闘争支援
9　大天地労組闘争支援
10　西鉱連地闘委員会　24時間スト　大天地労組闘争支援
11　華西連市内（荒尾市）情宣　大天地労組闘争支援　交流情宣　宮浦、港務支部
12　48時間スト第1日
大天地労組闘争妥結
三染労組から宮原　臼井　野添地域分会に交流激励デモ
荒尾市議会　三井鉱山企業整備反対を決議
13　48時間スト第2日
人事団交
華西連市内（大牟田）情宣
国鉄労組職場大会　三池より久留米駅へ30名参加
14　九州炭労地方委員会
第9号指令の説明をうけた。
西鉱連地闘委員会
大牟田市議会三井鉱山企業整備反対動議を否決。

職場分会長の解雇を申入れる
不当な首切りを許すな

職場闘争をおさえつけ、職制支配を強め労働強化をおしつけようとしている会社は、三川支部本屋下両方選挙長市分会長を「業務阻害」という理由で、労働協約第十二条によつて解雇すると申入れてきた。これは三十二年五月両方採炭分会で、資材不足問題をめぐつておこつた職場闘争を中心に、そのほか三十四年二月までに闘つた数回の職場闘争をふくめた「職場活動」の責任を、労働協約第十二条の解雇事項（業務阻害）に該当するものとして、遠賀分会長の一方的な解雇を申入れてきたものである。
三月五日交渉で本部に正式申入れてきたが、組合は団体交渉のなかで不当な首切りをハネ返していく方針をきめた。
十三日午後二時から本社会議室で第一回団交をひらいて、会社側からの説明をうけたが、会社は職場分会の総意でおこなつた正当な職場活動であるにもかかわらず、分会長個人を解雇することによつてその責任を追及しようとする不当な態度をあきらかにした。
組合は、単なる個人的な首切り問題でなく、職場活動をおさえつけ組合を骨ぬきにしようとする会社の意図を粉砕する闘いをすすめていく方針にたつて、十八日ひらかれる第二回団交にのぞむことになつた。
なお十六日ひらかれた中央委員会でも交渉経過の報告と闘争方針を諮解、確認した。
（会社申入れの内容や、組合との、実態調査内容などについては次号〝みいけ〟で具体的に記載します）



みいけ特集号をよんで

宮浦支部　うえむら

三月八日付の特集号を見て感じたことを一言します。会社はこんどの企業整備案の提出に先だつてマス・コミを通じ、早くから「不況宣伝」「赤字宣伝」をやつており、各組合員の中にも相当浸透していたようです。このことは私たちが闘いをすすめるブレーキとなり、組合運動の痛となることは明白でありました。この会社の宣伝にたいして、執行部としても「会社のマス・コミにかかるな」「不況はわれわれの責任でない」と根本的な宣伝に加えて、会社発表の経理内容も或程度分析して情宣していただくならと希望していました。
いままで研究会などの方法で、希望者や特殊な人たちには学習の機会もありましたが、一般組合員はやはり巧妙な会社の宣伝に乗りがちでした。会社の決算報告にある赤字計上と退職積立金の関連や減価償却とのつながり、あるいは複式簿記を採用してのからくりなど、いろいろな数字上のごまかしがあることがわかりました。私たちに理論武装が要求されるいま、組合員も家族も苦手ではあつても数字のからくりもふくめて理論的に物事を考えなくてはならないときになつております。以上の点から考えますと今度の特集号は、赤字の分析、財閥の解明、能率の推移など、私たち組合員の疑問を完全に解明してくれます。大会社の経理は少数の重役しか知らないといつておりますように、経理問題については、ほとんど座敷にいる組合員にとつて、多数の資料を収集するのに図り知れない苦労をされたことと思いますが、これで一部の組合員の危険な、労働者全体の前進をはばむ結果となるところの企業意識を打破する懼ともなれば、関係者の苦労も満たされることと考えております。
闘争が長期化するにしたがつて第二組合の発生の芽生えが大きくなるかもしれません。この際「組合もようやるばい」というようないわゆる第三者的な傍観的な態度をふりきつて、闘争をすすめるため、さらに団結を強め、私たちの手で私たちのしあわせを闘いとらなくてはなりません。